

経営比較分析表（平成29年度決算）

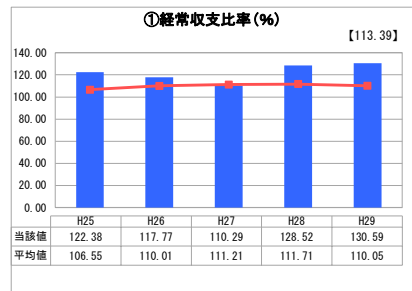
高知県 四万十市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	44.08	72.85	2,345	

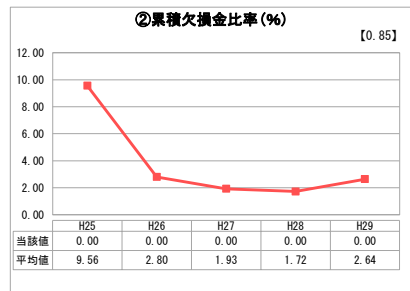
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
34,430	632.29	54.45
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
24,854	22.50	1,104.62

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成29年度全国平均

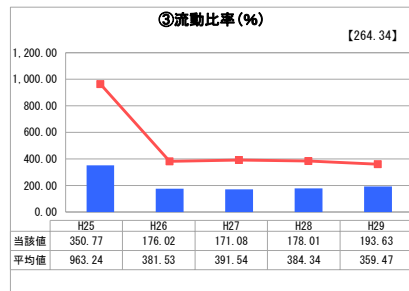
1. 経営の健全性・効率性



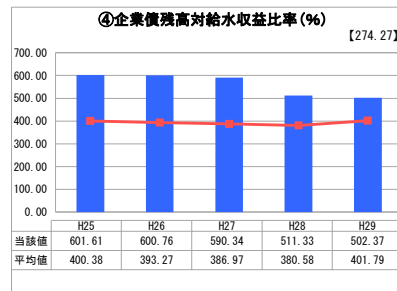
「経常損益」



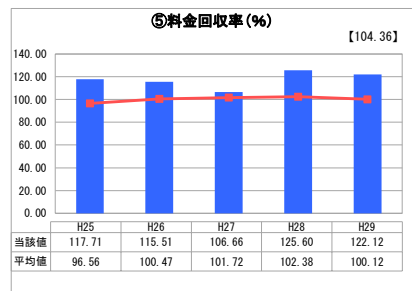
「累積欠損」



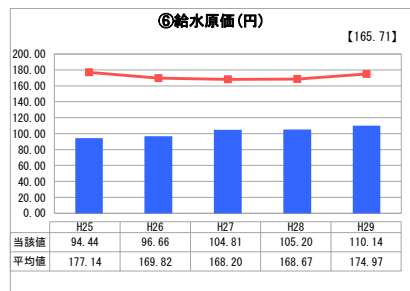
「支払能力」



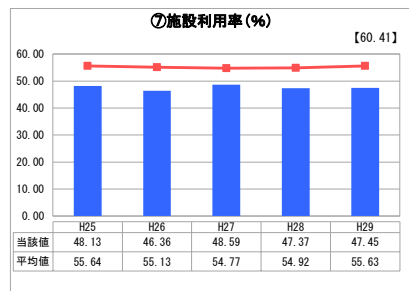
「債務残高」



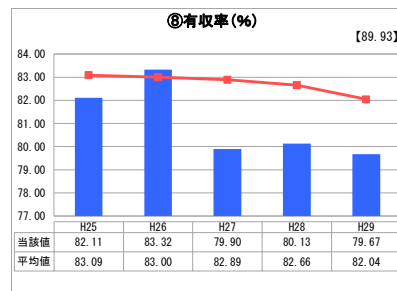
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

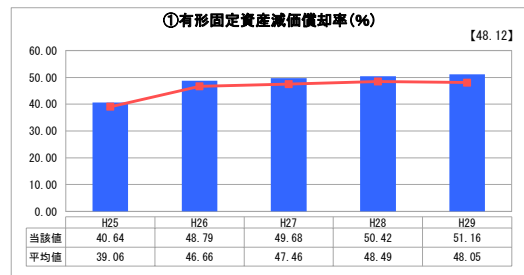


「施設の効率性」

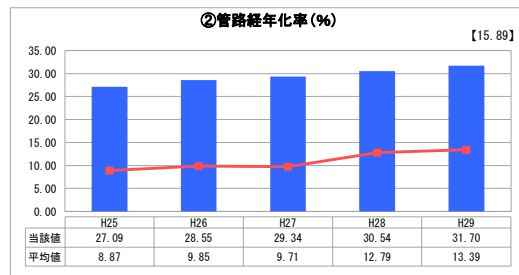


「供給した配水量の効率性」

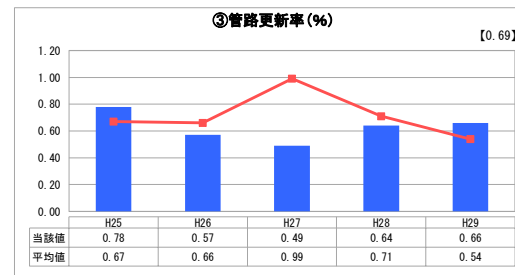
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
【指標】単年度収支が黒字であることを示す100%以上が必要。
【分析】毎年、黒字経営が継続できており、経常収支比率はほぼ類似団体並である。
② 累積欠損金比率 累積欠損金なし
③ 流動比率
【指標】1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を100%以上であることが必要。
【分析】100%以上ではあるが、類似団体と比較すると流動比率が低い。
④ 企業債残高対給水収益比率
【分析】類似団体と比較し企業債残高比率は高いが、毎年企業債の発行は抑制しており、残高は年々減少している。
⑤ 料金回収率
【指標】供給単価／給水原価であり、100%以上であることが必要。
【分析】類似団体と比較しても良好であり、100%以上が継続できている。
⑥ 給水原価
【分析】給水原価は、類似団体と比較しても安価で推移している。
⑦ 施設利用率
【分析】類似団体と比較し施設利用率は低い。今後も配水量の減少傾向は継続するものと考えられ、施設の適正規模を検討する必要がある。
⑧ 有収率
【分析】平成27年度・平成28年度・平成29年度は配水管の破損事故が多く、有収率が低下した。今後も漏水調査を実施することで、漏水の早期発見・修理を行い、有収率の向上に努めていく。

2. 老朽化の状況について

② 管路経年化率
③ 管路更新率
【分析】法定耐用年数を超えた老朽管の割合が増え続けており、より計画的に布設替工事を実施する必要がある。

全体総括

1. 基幹管路の耐震化
2. 法定耐用年数を経過した老朽管への対応
3. 給水人口・有収水量の減少に伴う給水収益の減少
4. 簡易水道事業との統合
など水道事業を取りまく環境は厳しく、課題は山積んでいます。その課題に取り組みつつ、水道事業の安定経営を継続することができるよう平成28年4月に水道料金の増額改定を行いました。これにより、過度に企業債に依存することなく、緊急性の高い『基幹管路の耐震化工事』などに積極的に予算配分することができるようになりました。今後も水道事業の安定経営に留意しつつ、『災害に強い水道』をつくることのできるよう取り組んでまいります。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。